

## 令和4年度第1回福岡市スポーツ推進審議会 議事録

<開催日時> 令和4年4月18日(月) 13:30~14:30

<開催場所> アクロス福岡 608会議室

<出席委員> 13名(欠席2名)

上和田 茂 会長、原田 清子 委員、見野 由美子 委員、  
齋藤 光子 委員、安武 壽子 委員、西村 秀樹 委員、  
兄井 彰 委員、藤井 雅人委員、早瀬 仁美 委員、  
小森 貴一郎 委員、平田 エマ 委員、夙 慶一郎 委員、浦川 宣 委員

<説明のため出席した事務局職員> 8名

重岡スポーツ推進部長、  
平山スポーツ推進課長、島袋スポーツ施設課長、的野スポーツ事業課長、  
ほか4名

<議題及び報告事項>

○ 議題

福岡市スポーツ推進計画に係る答申案について

<協議要旨>

○ 開会

(事務局)

- ・本日の出席委員数は、全15名のうち、13名で、委員の過半数を超えているため、福岡市スポーツ推進審議会条例第7条の規定に基づき、本日の会議が成立することを報告する。

○ 議題

福岡市スポーツ推進計画に係る答申案について

(会長)

- ・福岡市スポーツ推進計画については、平成31年3月に当審議会に、福岡市スポーツ振興計画の改定について諮問を受け、この審議会でも議論してきた。これまでの審議会の議論等を踏まえ作成した計画案について、3月中旬より1ヶ月間、パブリック・コメントを行った結果を踏まえ、本日、報告していただくものである。それでは、議題の「福岡市スポーツ推進計画に係る答申案について」事務局から説明をお願いする。

(事務局)

- ・資料に沿って説明

(会 長)

- ・ただいまの説明について、質問等がある委員は挙手のうえ、発言をお願いする。

(委 員)

- ・市民意見への対応は原案通りでよいと思う。また、計画もうまく纏められており、素晴らしいものができあがったと思う。
- ・市の体育館の個人利用について、予約受付が、毎週月曜日の午前9時から、電話か窓口でしかできないと聞いているが、月曜日の朝に集中して電話がかかってくることで、電話対応に追われているほか、受付予約の時間帯は、働いている方や学生などは申し込みが難しいなど課題もあると思う。
- ・個人利用の予約について、デジタル申請などの検討状況についてお聞きしたい。

(事務局)

- ・個人利用は、当日先着で予約受付を行っていたが、予約のために行列ができ、密な状況となっていたことから、新型コロナウイルス感染症の対策として、事前予約制を取り入れ、電話予約としていた。
- ・現在、ワクチン接種が進んでいる状況等を踏まえ、例えば、トレーニング室の事前予約制をなくし、利用条件を人数制限のみとするなど、以前のように予約せずに利用できる方向で取り組んでおり、また、サークル予約についてはコミネットというシステムでできるので、個人についてもデバイス等で予約ができる手法をとれないか検討しているところである。より時代に即した形に変えていきたいと考えており、今すぐできるわけではないが、そういう方向で進めていきたい。

(委 員)

- ・スポーツをする活動を数値目標にするというのはわかるが、令和元年度の時点で既に80%を超えている小・中学生の意欲面について、令和13年度に90%にするという目標値を明記する必要があるのか。我々が子どもの頃にスポーツと言われていなかったものが、時代の流れのなかでスポーツと言われるようになっており、今後も、スポーツの定義が変わっていく中で、経年的な比較や変化が示す意味も変わってきているように思う。数値を上げることは大事な成果指標だと思うが、一方で、それが現状を表しているのかということ冷静に考えていく必要があると思う。

(事務局)

- ・成果指標に関しては、スポーツという定義が変わってきている中で、こういった指標が取れて、また相応しいか、難しいところがあると感じている。その中で、新型コロナウイルス感染症の影響によって、子どもがスポーツをするきっかけを失っている中、「子ども」をポイントに置いて進めていくうえで、国の計画等を踏まえ、意欲面の数値を成果指標として設定させていただいた。これまでの審議会において、例えば、地域のスポーツの現状がわかる数値、みるスポーツが都市活力にどうつながっているのかを測る数値がとれないかなど、意見をいただいたところである。数値目標についても、今後10年間使っていく上で、スポーツの定義が変わっていくことがあれば、その点も考慮しながら、数値の受け止め方も含め、委員の皆様のご意見等をいただきながら、今後とも、スポーツの実態、現状把握に努めていく。

(会 長)

- ・他に意見等ないか。

(各委員)

- ・意見等なし

(会 長)

- ・続いて、市からの諮問について答申を行うにあたり、資料6の通り、答申書を作成しているので、読み上げさせていただく。(資料6の読み上げ) この答申書案について、意見があればお願いします。

(各委員)

- ・意見なし

(会 長)

- ・これで答申してよろしいか。

(各委員)

- ・異議なし

(会 長)

- ・それでは、これをもって答申する。長期間にわたる委員の皆様方の熱心な議論を経て、本日、答申として取りまとめられたことを改めて感謝申し上げる。議題は以上だが、その他、今後のスポーツ推進の取組みについて、意見等があれば、挙手の上、発言をお願いします。

(委員)

- ・市民意見の中に、新型コロナウイルス感染症を理由にしてあまり施設を閉めな  
いで欲しいとの意見があったと思う。私の子どもが通う小学校の体育館につい  
て、体育館を使用する公民館のクラブの子どもが新型コロナウイルス感染症に  
感染した場合、当該クラブが2週間体育館で活動できなくなるばかりでなく、  
それ以外のクラブも1週間体育館が使用できないと公民館によって定められ  
ている。最近では当該クラブの活動停止期間が1週間に短縮されたが、児童が新  
型コロナウイルス感染症に感染した場合もできるだけ学級閉鎖などの措置は  
とらずに、通常の学級運営を行おうとしている学校側と乖離したやり方がなさ  
れている。誰もが新型コロナウイルス感染症に感染しうる状況にある中で、ク  
ラブに感染者が出るたびに杓子定規に子どものスポーツの機会を2週間も奪  
うというのは、いかがなものかと思う。
- ・命に関わることでもあるので、安易に全部無条件に活動を許可して欲しいとい  
うわけではないが、公民館は福岡市のスポーツの要でもあるので、杓子定規な  
対応をするのではなく、もう少し柔軟に対応していただきたい。今後、ウィズ  
コロナの時代を考えると、より柔軟な考え方で、施設を使っていくことが必要  
だと強く感じた。

(事務局)

- ・新型コロナウイルス感染症に関する対応は、アクセルを踏むべきかブレーキを  
踏むべきか、様々なご意見がある中で難しい。学校施設の開放については、公  
民館や教頭先生、地域の方で組織する委員会で、校区毎に運用していただい  
ているケースが多い中で、校区内の心配の声と活動を望む声などを踏まえ、校区  
に合った運用をしていただいていると思っている。ワクチン接種が進む中で、  
ウィズコロナ、ポストコロナの視点で、今すぐすべての活動を再開というのは  
難しいと思っているが、安全面に配慮しながら、関係部署とも連携してでき  
るだけ活動していけるように働きかけていきたいと思っている。

(委員)

- ・公民館、学校の施設の利用についての話があったが、公民館の決まりとして、  
小学校で学級閉鎖が出た場合は、公民館或いは小学校の講堂を利用した活動の  
自粛をお願いしている。これに対して一部保護者等から、行き過ぎじゃないか  
という話もあり、公民館としては、サークルに感染者がいなければ利用できる  
ようにしたいという意見を公民館運営懇話会に諮ったが、地域の方から、学校  
が学級閉鎖までして、感染対策を行っている中で、校区のそれぞれのサークル  
が、それを度外視して、体育館或いは公民館の施設を利用して活動するのはい  
かがなものかという意見もあり、小学校の学級閉鎖が出た場合には、サークル  
活動を自粛するよう要請をしている。

- ・公民館によって置かれた立場が違うということもあり、市から一律の指示はなく、各公民館が実情に応じた対応をしている状況である。公民館としては、そのサークルに感染者がいなければ、サークル活動をやらせてもらって良いと思っていたが、地域からそういう声があれば、それを無視するわけにはいかず、公民館としては、実情に応じた対応を図っているところである。

(各委員)

- ・難しい。

(事務局)

- ・様々なご意見がある中で、大勢の賛成を得られるような統一的なルールは難しいと思うが、今後は、ウィズコロナ、ポストコロナという中で、安全面に配慮しながら、できるだけ活動していける方向になって欲しい思いもあるので、皆様の意見をしっかり聞きながら、スポーツの活動がより日常に戻っていくように、実情を踏まえながら検討していきたい。

(会 長)

- ・非常に貴重な意見で、統一ルールじゃなくても、それに近い状態に持っていく必要があると思う。

(委 員)

- ・保護者の立場と公民館の立場で話をするのではかみ合わないこともあり、お互いに歩み寄りが必要だと思うので、市の方でうまく意思疎通ができるように調整を図っていただけたらと思う。それが今後とても大事なことだと思うのでぜひよろしくお願ひしたい。

(委 員)

- ・この計画を踏まえ、実際に動くアクションプランなども考えると思うが、令和4年度予算の確保はできているのか、これからの予定についても教えていただきたい。

(事務局)

- ・令和4年度予算については、本計画を踏まえた子どもがスポーツに親しむきっかけづくりや、情報発信強化などを進めていけるように、計画関連事業として一定の予算を確保している。
- ・今回の計画は、基本的な方向性を示すものであり、今後については、新型コロナウイルス感染症の感染状況等を見ながらになると思うが、この計画が、実効性のあるものになるように、審議会の場で取組み状況等を報告し、ご意見やご

助言を頂戴しながら、取り組んでまいりたい。

(委員)

- ・令和4年度に打ち出す施策はある程度決まっていると考えて良いか。

(事務局)

- ・予算としては決まっているが、計画関連事業の具体的な内容については、これから詰めていく部分もある。

(委員)

- ・指導者の育成が大事という市民意見があった。岩手県の野球選手が良い成績を出しているのはなぜか、というテーマのテレビ番組を観たのだが、岩手県の野球クラブやサークルの指導者は、指導のあり方について年10回ほどコーチングを受けているということで、その内容は、ミスしても子どもを怒らない、伸び伸びとさせる、勝敗にこだわらずに楽しくさせる、ということが一番良かったと出ていた。子どもへのスポーツの普及という意味では、指導者のそういった考えによる指導が一番大事だと思った。

(会長)

- ・私も観た。おっしゃる通り、示唆的というか、なるほどと思わせる内容だった。

(委員)

- ・尻を叩いて指導しても、その場を乗り切れば、そこで途切れてしまう。スポーツが嫌になった、もうあんなにきついことはしたくないという子どもたちの話を何度も聞いたことがある。子どもの成長を促進するためには、伸び伸びと、楽しくスポーツに取り組めるような指導が大事だと思う。

(委員)

- ・中学校体育連盟の方から、子どもたちと退任される指導者の先生たちの思い出づくりのために、3月にバレーボール大会を開催したいとの相談を受けた。会場の確保など協力して、日程も決まっていたのだが、開催1週間前になって、急遽、教育委員会の校長会から反対の声が上がり、開催できなくなった。今後、同じようなことが起こった場合、対応を含めて、市のどこに、どのように相談すれば良いのか教えていただきたい。

(事務局)

- ・3月はまん延防止措置から県独自要請に切り替わる微妙な時期だったかと思う。その大会について、規模や参加者数、中体連の取組みなのか、個別の学校の取組みなのかも承知していないが、学校としての活動であれば、一義的には学校や教育委員会に相談することになるかと思う。我々も個別の大会をどうするべきかを判断することは正直難しいところがあるが、スポーツを所管する立場として、安全面に配慮しながら、できるだけ活動していける方向で進めていきたいと考えており、関係部署とも連携していきたい。

(会長)

- ・今後、大きな方向性として、個別の事例に対応することは難しいと思うので、個々の地域の状況について調査をし、ある程度の事例を集めて、平均値が良いわけではないと思うが、教育委員会とも話し合っ、スタンダードを決めていくべきではないかと思う。
- ・他に意見等ないか。

(各委員)

- ・意見等なし

(会長)

- ・これをもって本日の審議会を終了する。

○ 会議終了